

保護者のための情報モラルの手引き

インターネットを利用する子どもたちの安全を守るために



今日、社会のさまざまな分野で急速に情報化が進んでいます。このような社会の情報化に対応するために、各学校では積極的にコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を教育活動に取り入れています。

しかし、情報化には「光」の部分と「影」の部分があります。子どもたちが情報手段として利用する場合には、この「影」の部分の影響を受けないようにする必要があります。

多くの子どもたちが情報化の「光」の部分を感じ、インターネットを有意義に利用できるよう、保護者の方々の留意いただきたい点をまとめました。



一般的な注意

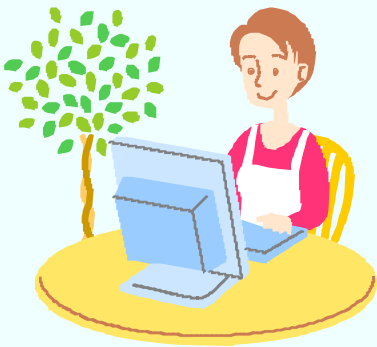
① 保護者の監督の下で使わせること

インターネットの利用により、子どもたちが、自分で気づかぬうちに犯罪にまきこまれたり、重要な個人データを流してしまい、それが悪用されたりするようなことも予想されます。子どもたちがインターネットを利用するときには、保護者の監督の下で使わせてください。

② 文字による通信が主体となること

インターネット上で、人と交流をするときには、文字による場合がほとんどです。子どもが相手に対して失礼な文章を流していないか、メールや掲示板などでだれかとトラブルがないか、常に気を配るようにしましょう。

また、子どもがメールを送るときには、文章の見直しを十分に行うよう指導することも必要です。



③ 自分の行動に責任をもつこと

子どもが、今、何をやっているのか、どういう状況にいるのかについて把握してください。また、トラブルに巻き込まれないよう自分の行動には自分で責任をもつよう指導しておくことも大切です。

電子メール

電子メールは、インターネットで使うことのできる、最も基本的なサービスの一つです。電話の応対や手紙の書き方のように、電子メールの使い方、書き方を確実に身につけさせ、子どもがトラブルに巻き込まれないようにしましょう。

① 電子メールの文章の書き方

電子メールは、基本的に文字が中心のコミュニケーションです。顔の表情や声の調子までは伝わらないので、ちょっとした言葉の受け取り方の食い違いから、トラブルに発展してしまうこともあります。子どもがこういった状況に出会わないために、電子メールを書くときには、ていねいな言葉で書くよう指導し、誤解を招きそうな文章や攻撃的な文章があれば、書き直させましょう。



② 虚偽のメールに注意

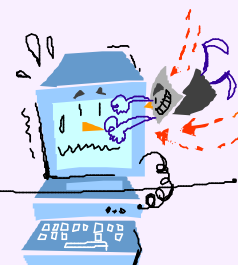
電子メールでは、必ずしも正しい情報が流れてくるとは限りません。電子メールにも、「不幸の手紙」のようなものや、「出所不明な噂話」のようなものが流れることがあります。電子メールで送られてきた情報に関しては、自分でその真偽を確かめるまでは、決して他の人に送らないように指導してください。

また、電子メールでは、送信者を偽って発信するものもあります。子どもが、友達の名前でメールを出してしまうことがないように、十分に注意してください。



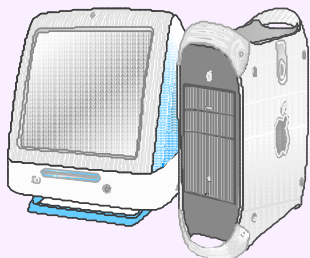
③ 不愉快なメールへの対処法

子どもが不愉快なメールを受け取ったら、削除させるようにしましょう。決して、相手の挑発にのって、攻撃的な態度をとらないように指導してください。何度も繰り返されるようでしたら、プロバイダに相談したり、メールソフトで、その人からのメールを着信拒否にするよう設定してください。



④ 電子メールの公開の禁止

子どもが、友達からきたメールを公開しないように注意してください。メールが公開されてしまった送信者はひどく傷つくことがあります。また、著作権の侵害にもつながります。



⑤ 電子メールのセキュリティ

電子メールは、封のできる書留ではなく、読もうと思えばだれでも読めるはがきのようなものと考えてください。暗号化などの技術は発達していますが、まだまだセキュリティが甘いのが現状です。クレジットカードの番号やコンピュータへのパスワードなど、他人に知られては困る情報に関しては、電子メールで送らないようにしましょう。

Webページ（ホームページ）

Webページには、明らかに子どもたちにとって有害なものや、アンケート形式で個人情報を集めるもの、有料のものもあります。子どもが有害な情報にアクセスしないように、十分に気を配りましょう。必要ならば、フィルタリングソフトを使うのもいいでしょう。

① 内容の真偽

Webページに掲載されている情報の中には、真偽の確かでないものもあります。子どもが、Webページの情報をうのみにしないように指導してください。

② 有害なページに注意

Webページのページの中には、アダルト向けや暴力、薬物など、子どもに有害なものも、たくさんあります。常に子どもの活動には目を配り、子どもたちを有害な情報から守ってください。そのため、フィルタリングソフトを導入して、アクセスできるページを限定したりすることも必要でしょう。

また、もし、子どもが有害なページを見ていた場合、そのページがなぜ「有害」なのかを説明してください。



③ 情報の発信には責任をもつ

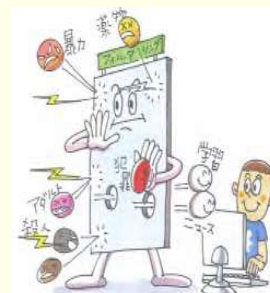


子どもがWebページを作成するときには、公開前に友達や他の人の悪口などを書いていないかを確認してください。そのようなページを作成している子どもがいたら、著作権の侵害や個人情報の保護、プライバシー保護等にふれ、それがどういう影響を及ぼすのかを説明して、そのページを削除するとともに、今後は書かないように指導してください。また、Webページは簡単に情報を公開できますが、情報の発信者に責任があることをよく理解させてください。

掲示板・チャット・メーリングリストについて

子どもが、掲示板・チャット・メーリングリストに参加する場合は、十分な注意が必要です。文章のちょっとした勘違いなどによるトラブル、プライバシー情報や個人情報などの流出、インターネット依存症と呼ばれる症状などの多くは、掲示板・チャット・メーリングリストが主な原因となっています。子どもをトラブルから守るためには、大人の目が届かないところでのこれらの活動への参加は禁止した方がよいでしょう。

しかし、大人の目を盗んでも、これらの活動に参加しようとする子どももいるでしょう。そのような場合、フィルタリングソフトの中には、掲示板を読むことはできても書き込むことができないものがあります。これらのソフトを導入するのも一つの方法です。



コンピュータウィルスについて

ウィルスは、フロッピーディスクやネットワークを通じて他のコンピュータにも感染していきます。インターネットを利用したときは、差出人に心当たりのないメールや添付ファイルがあったら、すぐに削除するようにしましょう。ウィルスに感染したことに気がつかず、誰かにメールを送ると、その送った相手までが、ウィルスに感染し、自分が加害者となることもあります。また、パソコンには必ずワクチンを導入してください。ウィルスは日々進化するので、最新の情報も入手し、こまめにワクチンプログラムの更新を行うようにしてください。

インターネット利用時に、子どもたちの安全を守るためのチェックリスト

- ① コンピュータは、家族が集まる部屋など、大人の目が届くところで利用しましょう。
- ② インターネットの利用に関するルールを、家庭で設けましょう。
- ③ 保護者から積極的に誘いかけ、子どもと一緒にインターネットを利用する時間を持ちましょう。
- ④ 保護者の許可なく、インターネット上で個人情報を明かさなことを、子どもにしっかりと守らせましょう。
- ⑤ 個人情報の入力を求められるサイトでは、必ずプライバシーやセキュリティに関する記述や情報を事前に確認しましょう。
- ⑥ オンラインで知り合った人と実際に会う場合には、必ず保護者が付き添いましょう。
- ⑦ メールやチャット、掲示板など、インターネットを介して子どもが不快なメッセージを受信しても、返事をしないように指導しましょう。また、このような場合には必ず保護者に報告させるようにしましょう。
- ⑧ 不適切なインターネットの利用をしていると思われる場面に出会ったら、ISP(プロバイダ)に報告しましょう。
- ⑨ 子どもを有害なサイトや情報から守るためのツールを使う際は、それぞれの特徴（何ができるか、できないか）や使い方をしっかり把握しましょう。



インターネットを使う上でのマナー



① 相手を思いやる

インターネットの先にいるのは自分と同じ人間であることを、常に意識させてください。どのように振る舞えば、ネットの先の相手に迷惑をかけないか、不快な気分させないかを考えれば、マナーは自然と理解できます。

② 自分の身は自分で守る

インターネットの「影」の部分からは、自分で自分の身を守るしかありません。しかし、子どもが「自分で自分の身を守る」ことができるとは限りません。そのため、常に子どもたちの活動に目を配り、トラブルや危険から子どもたちを守るようにしましょう。